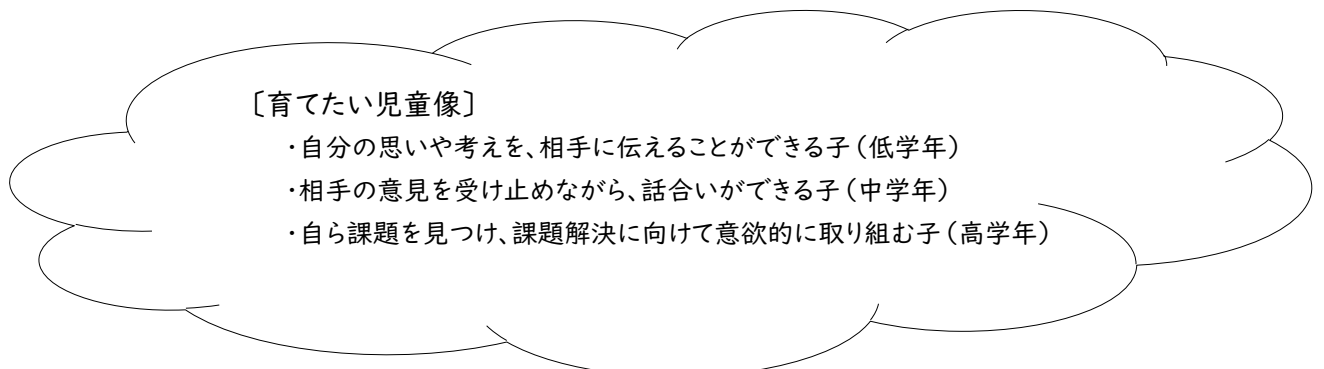
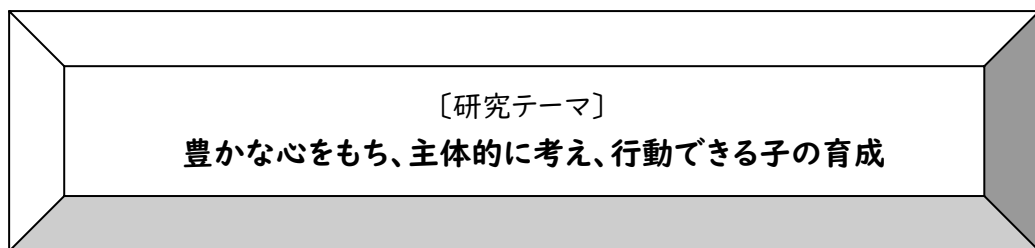
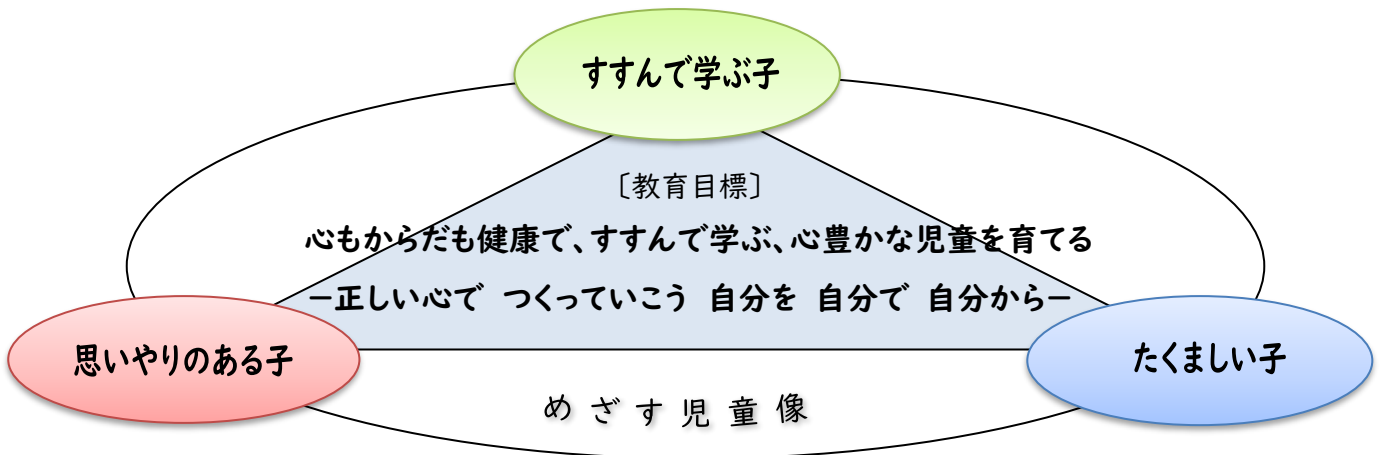
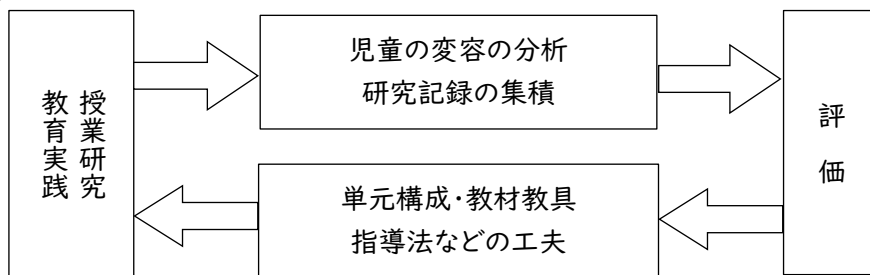


# R8 研究推進計画(案)

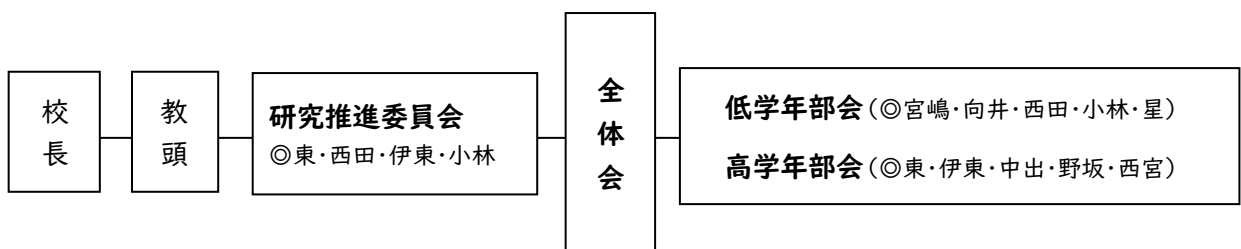
鳴鹿小学校



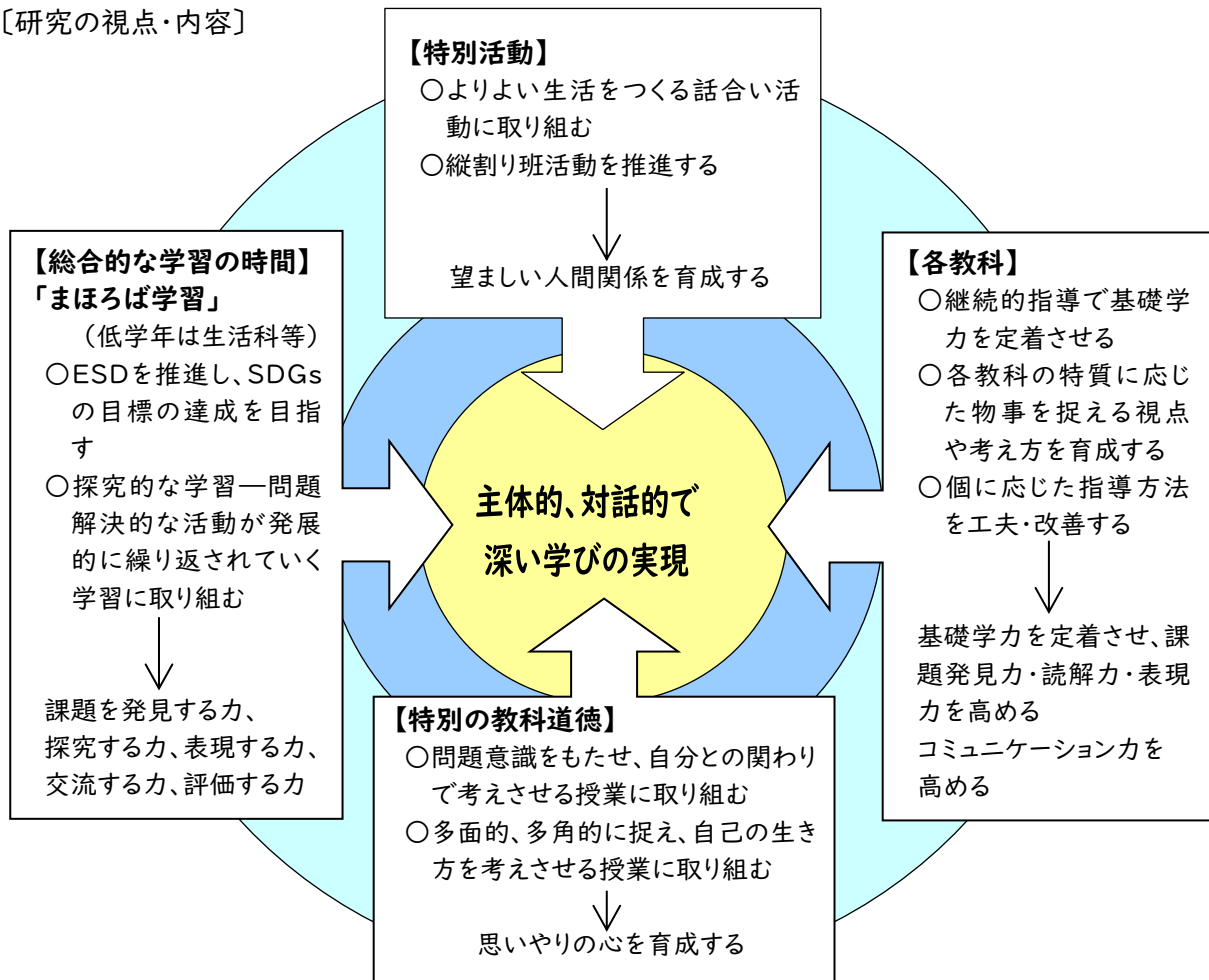
## [研究の流れ]



## [研究組織]



[研究の視点・内容]



[授業研究]

○各教科の授業力向上及びタブレット端末を活用した授業実践

ア 子どもたちが主体的に参加する授業の実践

※年度初めに、1人ずつ「実践の目標」を決める→Padlet「各自の実践記録」に入力する  
実践の過程や成果を、校内研究授業や現職教育等で、全体に伝える形をとる

- ①課題・発問の工夫…本時のめあてに即した魅力ある課題、評価場面につながる発問
- ②対話(聴き合い)…ペア対話、グループ討議など「わからない」「間違い」を大切に
- ③グループ討議やクラス全体での共有の工夫…個々の考えの深まりを目指す

イ タブレット端末やICT機器を効果的に用いた授業の工夫

- ①情報の収集、情報交換や共有の場の設定、資料の保存など
- ②現職教育を行い、効果的な使用方法を学ぶ

ウ よりよい学びのための情報共有

- ①Padletを用いた情報共有の場の設定(教師間)
- ②積極的に、互いの授業を参観する(公開授業以外でも)

エ 校内研究授業の実践(各教諭が年1回行う)

①教科を問わず、特に対話的な学びに焦点を当てた実践(適宜タブレット端末を活用)を提案する  
※公開したい内容に合わせ、現職教育の形を取ってもよい。

②事後検討会を低・高学年部会で分かれて行い、他部会は感想用紙を記入する(事前は任意)  
事後検討会后、内容を全体に共有する ※ESDの視点は指導案に記入しない

○個に応じた指導方法の工夫・改善

ア 興味・関心をもって取り組める教材・教具・指導方法の工夫

イ 授業のUD化、ICT(タブレット端末等)・デジタル教科書の効果的な活用

ウ 専門機関との連携

## [具体的方策]

### (1) 確かな学力の確立

○各教科の見方・考え方を育てる

○確かな学力を育成する

ア 継続的な指導で基礎学力を定着させる

- ①「なるかっ子8つの約束」を繰り返し確認し、定着を目指す
- ②「家庭学習の進め方」(児童)「家庭学習の手引き」(保護者)を配布し、家庭学習の定着を図る
- ③学習の基礎となる計算、漢字の読み書き等のトレーニングの活動に、継続的に取り組む
- ④学習記録を残したり互いに採点したりして、自身の学力向上を実感できるようにする
- ⑤朝活動のうち週1回、**学年に応じて文章を書く活動**に取り組み、書く力を育成する

テーマを決めて書いたり、本や新聞記事の感想を書いたりする。職員室前の作文コーナーに掲示する。

イ 授業のUD化、学びやすい学習環境、ICT(タブレット端末等)の効果的な活用に努める

ウ 長期休業明けにパワーアップテスト(国・算)を実施する

- ①全学年、長期休業中の学習課題として漢字や計算の練習を設け、休み明けにテストで確認する

4月-坂井市学力調査(2~5年)・全国学力・学習状況調査(6年)、8月-パワーアップテスト(全学年)、12月-SASA(5年)、1月-パワーアップテスト(全学年)

漢字や計算の練習課題は児童の過重な負担にならないよう、休み前の学期中に国語や算数の時間で取り組んだ課題の中から選ぶ。また、課題を厳選して、努力して繰り返し練習すればほとんどの児童が合格できるように配慮する。合格点は各担任で設定し、シール等で励ます。  
算数の内容は、計算だけに限らず、児童が身に付けなければならない基礎基本となる事項を盛り込むことも考慮する。

エ 読解力・表現力を向上させる指導の工夫

- ①発達段階に応じた思考力及び想像力を身に付けられるような指導を工夫する
- ②自分の考えを表現する場や、互いの思いを交流する場を工夫する
- ③国語辞典を引いたり、「ことばのたから箱」を活用したりして、語彙を増やす→作文に生かすなど
- ④グラフや表を読み取り、課題を立てて、気付いたことを話し合う場面を設ける

オ 発表力の育成

- ①朝の会や帰りの会などにスピーチの時間を設ける←朝活動の作文の内容を話すなど
- ②児童会活動での発表の場を活用する→聞き手の感想をフィードバックするなど

カ コミュニケーション力の向上

- ①各教科や各活動で、「話し方名人」「聴き方名人」を系統的に取り入れて指導する(掲示物あり)
- ②話し合い活動の方法を理解させ、自分の考えを説明したり伝え合ったりする場を設ける
- ③国語科だけでなく各教科等の学習においても、書く活動、話し合う活動を取り入れる
- ④発表を聞いた後に、感想や考えを伝える場を設け、意見交換が活発に行われるよう工夫する

キ 読書環境の充実、読書習慣の定着

- ①朝活動での読書、週末読書などにより、豊かな心を育成する
- ②児童が読む本に偏りが出ないように、ジャンルや内容などを助言する←本の紹介、読書ビンゴなど

### ○ESDの実践

ア 持続可能な社会の担い手づくりの視点からの環境教育の充実

- ・自然とのふれあいによる豊かな体験活動の推進
- ・環境保全につながる学習活動の推進
- ・ユネスコスクールの考えやESDカレンダーに基づいた学習活動
- ・情報を収集したり発信したりする活動の推進(まほろばフェスティバル)
- ・SDGsのマグネットシートの活用

イ まほろば学習の進め方

つかむ	子どもの関心・意欲を高める方法、気付きを生む視点の示し方 ウェビング法・KJ法の利用による課題発見、学習計画の立て方・時間の目安
調べる	調べ方(体験・器具・記録・図書・インターネット等)の提示と児童の利用促進
まとめる	まとめ方・表現方法の工夫(個人・グループで・学年で)

発信・ 行動する	広げる方法(異学年・家庭・地域に発信) 環境問題を自分の問題として捉える場の設定
-------------	---

ウ ESDの取組の紹介

- ①「校長室だより」やホームページによる紹介
- ②まほろばフェスティバルでの地域への発信

エ 学校環境の整備

- ①ビオトープの整備
- ②地域の協力者や利用できる関連施設のリストアップ

(2) **豊かな人間性の育成**

○道徳の時間を要とした教育活動全体を通しての心の教育の充実(「絆づくり」「居場所づくり」を意識する)

ア 場に応じたあいさつや返事の指導

イ 読書を通じた豊かな心の育成

- ・読書の習慣化を図る、週末読書・ノーメディアデーの日の読書を勧める
- ・良書を推奨し、感想を交流する

ウ 多様な縦割り活動の実践

- ・学年を超えた思いやりや人間関係の充実を図る
- ・年間を通して継続的に活動を展開する。(集団登下校・清掃・縦割り遊び・異学年活動・各行事等)

エ 温かい学級づくりと教育相談の充実、不登校の未然防止

- ・「ハート&ハートタイム」や「心のお天気調べ」で児童理解を図る
- ・仲間との絆を深め、自分の居場所が確保できるような学級づくりに努める(「思いやりの木」など)

オ しあわせの○○ **※検討事項**

- ・テーマに合わせて、自分や友達のことについて書く。職員室前に掲示。

○野菜や稲の栽培活動など体験を通じた食の教育の充実

ア 食に関わる人たちや自然の恵みに対する感謝の心の育成

(3) **健やかな体の育成**

○規則正しい生活習慣を身に付けさせる

ア 「リセットカード」を活用し、早寝早起きを習慣化させる

イ 「丸岡南スマートルール」を活用した、ネット、携帯、ゲーム機等の使い方の指導をする

ウ 目の使い過ぎに気を付け、休ませることを常に意識する習慣の定着

○疾病等リスクの軽減と生活の質の向上、健康を支える環境づくりに取り組む

ア 保健指導を充実させ、感染症予防と生活指導を徹底する

イ 食育を推進し健康な身体づくりに取り組む

- ・健康に食が深く関わっていることを給食指導や生活科、家庭科の学習を通して学び、家庭と協力して食育に取り組む

ウ 健康診断後治療率の90%以上を維持する

- ・家庭と連携し、児童の健康の維持、増進に力を入れる

○進んで体を動かす子を育成し、体力づくりに取り組む

ア 年間を通じたパワーアップタイムの実施による体力向上を図る

- ・児童が意欲的に取り組めるように、全校共通した記録カードを作る
- ・鉄棒や遊具等を利用した運動を取り入れる

イ 休み時間の遊びと運動を奨励する

○防災や安全に対する意識を向上させる

ア 避難訓練や登下校の交通安全指導を徹底する

(4) **家庭・地域との連携**

○開かれた学校づくりや福井型コミュニティ・スクールの取り組みの推進

ア まほろば協議会の充実による保護者や地域の声の反映

イ ホームページによる家庭や地域への情報発信と情報公開

ウ 幼保・中学校の体験入学や情報交換による幼保・小・中連携の推進